Press Release
報道関係者 各位

2024 年 1 月 26 日
株式会社基住

アーティスト、キュレーターの実験と挑戦を支援する

現代アートギャラリー「hakari contemporary」

京都市左京区岡崎円勝寺町に 2024 年 2 月 17 日オープン

株式会社基住（本社：兵庫県尼崎市/社長：藤本繁之）は、アーティストやキュレーターの実験と挑戦を支援するコンテンポラリーアートギャラリーを 2024 年 2 月 17 日に京都国立近代美術館と京都市京セラ美術館のほど近く、神宮道沿いにオープンします。

hakari contemporary

弊社の主業は建築・不動産・総合管理・エネルギー事業と多岐にわたるものの、美術業界には今回が初参入となります。「hakari contemporary」は、弊社の主業である建築・不動産事業における 10 か年計画「自然と共生する街づくり」実現に向けた投資的事業と位置付けられ、総じてアートマーケットの外延にあるコマーシャルギャラリーではその採算性などの観点から実行の難しい実験的作品やエキシビションを、アーティストやキュレーターを支援、協働することで率先して実現します。「hakari contemporary」は美術業界の外側から現れた変化をもたらす異分子として、京都ひいては日本のアートシーンから、より広範な社会と人々に対してより良い変化をもたらす存在となることを志向します。

■ギャラリー概要

・名称：　hakari contemporary（ハカリ　コンテンポラリー）
・所在地：　京都府京都市左京区岡崎円勝寺町 140　ポルト・ド・岡崎 103
・展示空間：　面積　約 58.3 ㎡　壁面　約 40.7m　天井高　約 2.85m（一部 2.55m）
・オープン：　2024 年 2 月 17 日　土曜日
・サイト URL：　https://hakari.art

電車
　地下鉄　東西線
　　東山駅より徒歩約 6 分（400m）
　　三条京阪駅より徒歩約 14 分（1.0km）
　京阪
　　三条駅より徒歩約 16 分（1.1km）
バス
　京都市バス　5 号系統
　　神宮道停留所下車すぐ（20m）
車・タクシー
　　JR 京都駅より約 20 分（4.7km）

■会社概要

　株式会社基住は 2006 年設立以来、「良い家」と「心豊かな家創り」を志向し、阪神間で通算 800 棟以上の住宅を供給させていただく建築・不動産会社です。2023 年より 10 か年計画として「自然と共生する街づくり」を始動し、その実現に向け邁進しています。

・会社名：　株式会社基住（カブシキガイシャ　キジュウ）
・所在地：　兵庫県尼崎市西昆陽 1 丁目 30 番 11 号
・代表者名：　藤本　繁之
・資本金：　9,500 万円
・事業内容：　GI 事業・建設業（設計・施工）・不動産販売及び賃貸業・不動産仲介業
　　総合管理業・損害保険業・太陽光発電事業　他
・サイト URL：　https://www.kijyu.co.jp

■お問い合わせ先

株式会社基住
TEL：06-4962-3088　FAX：06-6432-9597
担当者：谷口　元気
E-MAIL：info@hakari.art　Mobile：070-9101-9145

Daiki Nishimura
Absent Landscape, Peaceful Sea

西村 大樹
不在の風景、平穏な海

2024 年 2 月 17 日(土) - 3 月 20 日(水・祝)　11:00-18:00　会期中無休

■記念トークイベント
2024 年 2 月 17 日(土)
16:00-17:00
西村大樹（画家）　×　秋丸知貴（美術評論家）

■オープニング パーティー
2024 年 2 月 17 日(土)
17:00-

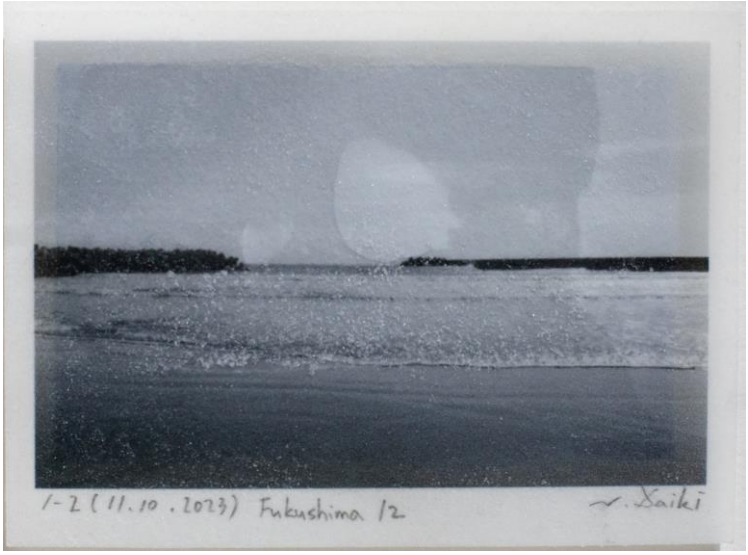
このたび hakari contemporary では、西村 大樹による個展『Absent Landscape, Peaceful Sea』を開催いたします。災害と環境汚染をテーマとする西村は、2023 年 8 月 24 日から始まった東京電力福島第一原子力発電所の処理水海洋放出に呼応する新シリーズとして、『Crossing the ALPS』シリーズと『1 - 2』シリーズを制作しました。

『Crossing the ALPS』シリーズは、プロパガンダを目的として作成されたジャック＝ルイ・ダヴィッド（1748 -1825）の絵画「Napoleon Crossing the Alps」を図像として参照しながら、画面上の顔料、水溶性塗料などを海水によって希釈するという手法が用いられています。塗料は和紙の歪みの影響を受けながら画面上に拡散され、図像の支持体となる和紙全体は深い海を思わせる色彩に染められています。画面中央に配置された図像を取り囲むように設けられた木製の簡素な堰は、そこに流し込まれた樹脂の圧力によって崩壊し、そこから溢れ出す樹脂は画面の内側と外側の概念を揺るがしながらも、作品全体を取り囲む二つ目の堰（その高さは一つ目の堰よりも極めて低い）によって辛うじて作品内に留められています。

Crossing the ALPS Third time

ミクストメディア、水性塗料、海水、和紙、蜜蝋、樹脂、木製パネル

2024 年　67.5 x 48 cm



1 – 2 (11.10.2023) Fukushima 12

水晶粉末、蜜蝋、樹脂、和紙に顔料プリント、アルミ板、木製パネル

2023 年　イメージサイズ 6.9 x 9.6 cm

『1 - 2』シリーズは、福島第一原子力発電所から同第二原子力発電所の間のエリア、立ち入り禁止指定区域の境界線沿いを撮影した写真を用いて制作されたシリーズです。和紙に顔料プリントされた写真は、アルミ板に透明な樹脂を用いて接着されていますが、その樹脂は意図して均一には塗布されておらず、アルミ板と半透明な写真との間に、閉じ込められた空気の層を作り出しています。どのように樹脂を塗布し、どのような力加減で圧着するのか。その機微こそが、このあまりに素朴な作品の中で、作家の思惑が最大限に介在する要素となっています。

これら二つの新シリーズは、ともに東日本大震災とこの度の処理水海洋放出という出来事から端を発し、政治と美術との歴史的関りにおける一つの側面と、それらが日常に与える影響について我々に示唆を与えてくれます。こうした作品群は常にポリティカルな問いを孕みながらも、実直に素材研究を重ねる西村の手によって、美術作品として一つの洗練されたイメージをたたえています。本展では前述の新シリーズとともに、西村の代表的なペインティングシリーズである『Foresight dream』の新作を交え、人間活動と自然環境に対する西村独自の鋭いまなざしと表現とを一連の流れで体感いただける展覧会となっております。

ともすれば目を背けたくなるような環境問題を直視し、重要な問いを投げかける見事な芸術作品へと昇華した西村の展覧会を是非ご高覧下さい。

歴史の最も危うい季節に

キャンバスに油彩、アルキド樹脂絵具、岩絵具、樹脂

2023 年　53 x 53 cm

hakari contemporary
https://hakari.art
Map　Website
606-8344　京都府京都市左京区岡崎円勝寺町 140　ポルトド岡崎 103

作家プロフィール

西村　大樹
にしむら　だいき

1985　大阪府生まれ
2009　大阪芸術大学芸術学部美術学科卒業
2011　大阪芸術大学大学院芸術研究科博士前期課程修了

画家。2010 年以来 13 年間京都の法然院で、2012 年以来 11 年間大阪の spectrum gallery で、毎年個展を開催。2022 年に画集『雲の中の虹 西村大樹 2020-2022』出版。2023 年に東京日本橋三越コンテンポラリーギャラリーで 個展「Bird's eye view - To recollect what we remember: Part2」開催。2023 年に Watowa Art Award 審査員賞(高橋隆史賞)受賞。日本、フランス、シンガポール等でグループ展に出品。

私が環境問題や水の循環等に、関心を持つ切欠となったのは父の存在だった。父は野鳥研究者で、様々な開発が環境に及ぼす影響を調査する、環境アセスメントという仕事をしていた。しかし、私が 3 歳の時に、重度障害者となり身体の自由を失うこととなった。父が亡くなるまでの 20 年間、動くことのない身体と対照的に前向きで自由な父の精神は健在であり続け、父と過ごす時間の重なりの中で，それは静かに伝わってきた。

水がなければ生命は存在できない。この当たり前の事を父との生活の中で実感した。父と私と自然、森羅万象が生み出してきたものとの関連性を強く意識した。ここで使っている自然という言葉には、森林だけではなく、地震や津波、飢餓、獣や虫の害というようなあらゆる現象を含んでいる。3.11（東日本大震災）以降、私の世界観は一変した。水という生命全体、地球の事を考えさせられた。環境汚染が深刻な問題として浮かび上がる。物質の進歩や社会革新によってもたらされた破壊という人類の中核にある矛盾。特に核、原発、放射能による汚染。

今、私にとって最も大切なことは個人が向き合うべき森羅万象の一象に意味と喜びを見出し、他者と共有すること。アミニズム思想を基盤とした神や仏という意識の再構築が火急の課題と感じていることであり、作品が鑑賞者にそのような意識と場を作り出すキッカケとなることを望んでいる。

西村大樹公式ウェブサイト
https://daikinishimura.jimdofree.com/